

- 問1 3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏に使いを送り「朝貢」を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岩手県公立入試 類似)
1. 中国から仏教を公式に導入することで、宗教の力を用いて争いの絶えない国内を鎮めるため
 2. 中国の優れた文字（漢字）を学び、律令制度に基づいた中央集権国家をいち早く形成するため
 3. 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため
 4. 中国の進んだ稲作技術を独占し、食料生産を安定させることで人口を増やすため
- 問2 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
1. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。
 2. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。
 3. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。
 4. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。
- 問3 中国の歴史書である『魏志倭人伝』は、日本の古代社会を知る上で非常に重要な史料です。この書物において、日本の「道路」に関する最初の記録が残されている背景を考慮し、当時の社会状況の説明として適切なものはどれですか。 (2022年 長野県公立入試 類似)
1. 鑑真が仏教を広めるために日本を訪れた際、僧侶が移動するための専用の道路が全国に整備されたことが記されている。
 2. 律令国家の仕組みが整い、地方と都を結ぶために全国規模で「駅制」という道路網が完成した様子が記されている。
 3. 墾田永年私財法によって開墾された土地へ農民が移動するため、政府が初めて本格的な道路建設に着手したことが記されている。
 4. 卑弥呼が邪馬台国の女王として約30の国を統治しており、当時の日本の様子や交通に関する初期の状況が記されている。
- 問4 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった青銅器のうち、表面に幾何学模様や当時の生活・自然の様子が描かれ、釣鐘のような独特の形状をしている道具の主な用途として最も適切なものを選びなさい。 (2023年 三重県公立入試 類似)
1. 豊作などを祈るための祭りの道具
 2. 土を耕し田植えをするための農業用の道具
 3. 食料を保存し煮炊きをするための道具
 4. 獲物を捕らえたり身を守ったりするための狩りの道具
- 問5 3世紀頃の日本（倭）の様子が詳しく記されている中国の歴史書『三国志』の一部で、邪馬台国の女王である卑弥呼が魏の皇帝から「親魏倭王」という称号を授かったことなどが記述されている資料の名前として正しいものを選びなさい。 (2017年 富山県公立入試 類似)
1. 後漢書東夷伝
 2. 日本書紀
 3. 魏志倭人伝
 4. 漢書地理志
- 問6 弥生時代の社会の変化について述べた文として、当時の集落のあり方や道具の特徴を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. 縄目の文様がある厚手で黒褐色の土器を使用し、主に狩りや採集を行って生活した。
 2. 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。
 3. 仏教の伝来とともに巨大な前方後円墳が造られ、集落の形が大きく変化した。
 4. 竪穴住居が並ぶ大規模な集落が形成されたが、外敵を防ぐための堀などは作られなかった。
- 問7 奈良県にある唐古・鍵遺跡のような、周囲を深い濠（ほり）で囲んだ「環濠集落」からは、高床の建物が描かれた土器などが出土しています。このように、集落の周りに濠を巡らせた主な目的と、この時代の近畿地方において主に祭祀（お祭り）の道具として使われていた青銅器の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
1. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため / 青銅器：銅鐸
 2. 目的：水害から住居を守るため / 青銅器：銅鐸
 3. 目的：水害から住居を守るため / 青銅器：はにわ
 4. 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため / 青銅器：土偶
- 問8 中国の歴史書には、紀元前1世紀頃から1世紀頃にかけての倭（日本）の様子が記されています。これらの記述についてまとめた次の説明のうち、最も適切なものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
1. 『後漢書』東夷伝には、卑弥呼が30余りの国に従え、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号を授かったことが記されている。
 2. 『漢書』地理志には、倭人が100余りの国に分かれて生活し、定期的に朝鮮半島の楽浪郡へ使節を送っていたことが記されている。
 3. 『魏志』倭人伝には、倭の王が初めて中国の皇帝に朝貢し、大陸の進んだ青銅器文化を日本へ持ち帰ったことが記されている。
 4. 『漢書』地理志には、奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、中国との交流を深めたことが記されている。
- 問9 1世紀頃、日本（倭）の小国の王が中国の漢（後漢）の皇帝に使いを送り、皇帝から臣下として認められた証として授けられたとされる金印には、どのような文字が刻まれていますか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
1. 漢委奴国王
 2. 卑弥呼
 3. 親魏倭王
 4. 志賀島
- 問10 弥生時代に始まった、青銅器と鉄器の使い分けに関する背景について、正しい説明はどれですか。 (2026年 北海道公立入試 類似)
1. 石器から鉄器への移行を嫌った指導者たちが、妥協案として青銅器を儀式に導入した
 2. 青銅器は弥生時代の中頃に全て回収され、その原料はすべて鉄器の製造に再利用された
 3. 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった
 4. 青銅は鉄よりも耐久性に優れていたため、大規模な土木工事の道具としてのみ使われた
- 問11 弥生時代の3世紀、邪馬台国の卑弥呼が中国の「魏」に対して使いを送った目的と、その結果として当時の国際情勢から読み取れる背景として最も適切なものはどれか。 (2017年 東京都公立入試 類似)
1. 全国的な徴税制度である大宝律令を確立させるために、中国から法制度の専門家を招いて政治改革を推進した。
 2. 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。
 3. 日宋貿易を円滑に進めるために、大輪田泊のような港湾施設を整備して中国との経済的な結びつきを重視した。
 4. 隋の皇帝に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して「日出づる処の天子」という国書を届けさせた。
- 問12 稲作の技術が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起き、周辺のムラを従えて「クニ」をつくる者が現れた弥生時代の社会において、青銅器はどのような役割を担ったと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 大規模な水田開発を行う際、土を掘り起こすための主要な農具として普及した
 2. 王や指導者がその権威を示すため、あるいは祭祀を行うための象徴として用いられた
 3. 大陸との交易において、日本の特産品として輸出される主要な品目となった
 4. 呪術的な力を持つと信じられ、女性の姿をかたどった土偶とともに魔除けとして埋められた

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の大国の権威を背景に、国内における自らの支配の正当性や地位を高めるため	当時の日本（倭）は多くの小国が争っている状態でしたが、卑弥呼は邪馬台国を中心とする連合をまとめ、中国の強大な王朝である魏に朝貢しました。魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印を授かることで、中国という後ろ盾があることを他の国々に見せつけ、国内の統治を有利に進めようとする外交上の狙いがありました。
問2	答え 1 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問3	答え 4 卑弥呼が邪馬台国の女王として約30の国を統治しており、当時の日本の様子や交通に関する初期の状況が記されている。	日本の道路についての最初の文字記録は、3世紀の『魏志倭人伝』に見られます。この時期は卑弥呼が邪馬台国で約30の国を従えていた時代であり、中国との外交や国内の統治に関連して、当時の日本の様子が記述されました。律令国家による体系的な道路整備（駅制）は7世紀後半から8世紀にかけてのことであり、卑弥呼の時代よりも後の出来事です。
問4	答え 1 豊作などを祈るための祭りの道具	銅鐸は、弥生時代に青銅鏡や青銅器などとともに大陸から伝えられた青銅器の一種です。当初は音を鳴らすための実用的な鈴としての側面もありましたが、日本で発展するにつれて大型化し、集落の共同体で豊作を祈るなどの祭祀（まつり）に使用される宝器としての役割が強まりました。
問5	答え 3 魏志倭人伝	3世紀の日本（倭）について詳しく記述されているこの資料は、中国の歴史書『三国志』の中に含まれています。邪馬台国の女王である卑弥呼が魏に使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった事実が記されており、当時の日本の政治や社会状況を知るための極めて重要な史料です。なお、選択肢にある『日本書紀』は8世紀に日本で作成された歴史書であり、混同しないよう注意が必要です。
問6	答え 2 集落の周りに堀や柵を巡らせ、薄くて硬い土器や鉄器・青銅器などの金属器を使用した。	弥生時代は、稲作の普及に伴い金属器（鉄器・青銅器）や、縄文土器に比べて薄くて硬い弥生土器が使われ始めました。社会構造の変化により、争いから身を守るための環濠集落が築かれたのがこの時期の大きな特徴です。縄目の文様がある土器や、防御施設のない大規模集落（三内丸山遺跡など）は主に縄文時代の特徴です。
問7	答え 1 目的：外部からの敵の侵入を防ぐため ／ 青銅器：銅鐸	弥生時代の遺跡に見られる「環濠集落」は、稲作が始まり蓄えができたことで発生した、集落同士の争いに備えた防御施設としての性質を持っています。奈良県の遺跡から出土した建物が描かれた土器などは、当時の生活の様子を伝える貴重な情報源です。また、この時代には大陸から青銅器の技術が伝わりましたが、特に近畿地方では鐘のような形をした「銅鐸」が作られ、豊作を祈るなどの祭りの道具として用いられました。土偶は縄文時代の呪術的な道具、はにわは古墳時代に古墳に並べられたものです。
問8	答え 2 『漢書』地理志には、倭人が100余りの国に分かれて生活し、定期的に朝鮮半島の楽浪郡へ使節を送っていたことが記されている。	紀元前1世紀頃の日本の様子は、前漢の歴史を記した『漢書』地理志に「倭人は100余りの国に分かれていた」と記録されています。一方、1世紀半ば（紀元57年）に奴国の王が金印を授かった記録は『後漢書』東夷伝に、3世紀の卑弥呼に関する記録は『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）に記されており、書物と時代・内容を正しく区別する必要があります。
問9	答え 1 漢委奴国王	1世紀（西暦57年）に倭の奴国の王が後漢の光武帝に朝貢した際、皇帝から授けられたものです。この金印には「漢の委（倭）の奴の国の王」を意味する文字が刻まれており、当時の中国が周辺の支配者に称号や印を与えて地位を認める国際秩序（冊封体制）の一部であったことを示しています。
問10	答え 3 鉄器が実用的な武器や工具に用いられる一方で、青銅器は主に集団をまとめるための祭礼や権威の象徴に特化していった	弥生時代の日本において、金属器は「実用の鉄」と「祭祀の青銅」という二面的な使い分けがなされていました。稲作の普及に伴って集団が大きくなると、人々をまとめ上げるための儀式や、その集団の頂点に立つ指導者の権威が必要となりました。そのため、美しく加工しやすい青銅器は、実用性よりも、見る人を圧倒するような象徴的な価値を求められるようになったのが大きな背景です。
問11	答え 2 中国の皇帝から倭の王としての正当性を認められることで、国内の諸勢力に対する支配力を強化しようとした。	当時の東アジアでは、中国の皇帝に朝貢して臣下としての称号を受けることで、周辺諸国の王が自らの地位を保証してもらう「冊封（さくほう）」という仕組みがありました。多くの小国が対立していた弥生時代の日本（倭）において、卑弥呼が強力な「魏」の皇帝から「親魏倭王」の称号を得たことは、他の勢力に対して自らの権威を示す強力な武器となりました。聖徳太子が隋に対して対等な外交を試みたのは後の7世紀の出来事であり、卑弥呼の時代はまだ中国を中心とした秩序を利用して国内統治を安定させようとしていた段階にあたります。
問12	答え 2 王や指導者がその権威を示すため、あるいはは祭祀を行うための象徴として用いられた	稲作の伝来により生産力が高まると、土地や水をめぐる対立から社会に階級が生じ、各地に「クニ」が成立しました。地域の指導者は、集団の結束を固めるための祭祀（まつり）を主導し、その際に大陸由来の希少な技術で作られた青銅器を権威の象徴として利用しました。土偶は縄文時代の特徴的な遺物であり、青銅器は農具としては脆いため実用的ではありませんでした。